

オムロン株式会社 2021年度1Q決算
投資家様向けウェブ・電話説明会 質疑応答（サマリー）
（2021年7月29日）

<全社業績、経営・戦略>

Q：次期長期ビジョンに向けてどんな議論をしているか？

A：売上や利益の話はもちろんしているが、いかに企業価値を向上させていくかという観点を重視している。時価総額を最大化するために、各事業がいかに財務・非財務価値を上げていくか、そのためにどんなKPIを置けばよいか議論をしている。詳細は、来年2月に予定している次期長期ビジョンの説明会で発表する。

Q：部材不足等によって生産に影響は出ているか？

A：部材不足等の影響を受ける中、想定を上回る受注が来ており、実需を見極めながら生産している。ほぼフル稼働状態なので、今後は必要に応じて生産キャパの拡張も考えている。

<制御機器事業 関連>

Q：通期見通しの予想にあたり、1Qと同水準の売上が今後も継続すると考えてよいか？

A：好調な事業環境は継続するが、サプライチェーンのリスク等もあり、1Qの売上水準が継続するかはまだ何とも言えない。1Qの売上はほぼ実需ベースだが、先納期を含む想定を上回る受注により注残が増えている。通期見通しは、2Q決算のタイミングで見直したい。

Q：国内の売上が回復しているが、その背景や今後の見通しについて教えてほしい。

A：デジタル業界における半導体製造装置や自動車業界のEV向け中心に回復。一時的な要因ではなく今後も需要は継続すると見ている。一方でガソリン車向け投資はまだ本格回復には至っていないという状況。

<ヘルスケア事業 関連>

Q：遠隔診療サービスをはじめとするソリューション力強化の進捗について教えてほしい。

A：遠隔診療サービスは2025年にグローバルで利用者100万人を目標に掲げている。実現に向けた取り組みの詳細は、来年2月に予定している次期長期ビジョンの説明会で発表する。

Q：前年のコロナ需要からの反動減はあるか？

A：血圧計は、コロナ前から売上二桁成長のモメンタムができており、反動減はない。体温計は、前年からの反動があるものの、想定ほどは下がっていない。昨年停滞していたネブライザは中国を中心に回復基調であり、ヘルスケア全体で売上は伸びている。